

災害拠点病院運営委員会

委員長 木村 龍範

災害拠点病院運営委員会について

当院は災害対策基本法に基づいて、平成15年から都道府県知事より災害拠点病院として指定されており、災害などの有事の際は大分県北部地域での災害拠点病院としての役割を担います。また災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣を行う機能を有しています。

当委員会は、災害拠点病院として既存の災害対策マニュアルを業務事業計画(BCP)に則った方法で改訂・追加し、机上訓練と実動訓練を実施し、評価をするPDCAサイクルに基づいて運営していく事を主な業務としております。

DMAT小委員会について

○DMAT運営委員会

大分DMAT又は日本DMATの資格を有する隊員から構成され、月に1回の会議を開催しています。活動としては実動・訓練のみならず、隊員養成研修や災害研修等に参加し災害の知識向上を図っています。今年度活動としては、大分県の要請を受けて新型コロナウイルス感染症に係る宿泊療養施設における医療救護活動として、当院より職員を選出し派遣致しました。今後も、DMAT の出動要請があれば、可能な限り対応していきたいと思っております。

大分県・西部地区等総合防災訓練に参加しました

令和4年10月8日(土)に大分県・西部地区等総合防災訓練が日田市・中津市・九重町・玖珠町で行われました。この訓練は、大規模災害発生時における災害対応能力の向上を主眼として、防災関係に携わる自治体と関係機関・団体との連携強化ならびに地域住民の共助精神の高揚を図る目的で毎年会場を変えて開催されています。参加関連機関・団体が計72にもおよぶ大規模な訓練で、中津市民病院からも約44名の職員に参加して頂きました。

訓練想定は集中豪雨及び南海トラフ巨大地震で、非常に激しい雨が降り続けている中、10月8日午前9時に日向灘を震源とするM9.0の巨大地震が発生し、中津市で震度5弱を観測するシチュエーションでした。さらに、降り続けていた雨により地盤が軟弱化していたため、母屋の倒壊や斜面の崩壊、火災等により多数傷病者が発生しているという設定でした。参加した各市の会場ごとにそれぞれパート分けして訓練を実施しました。

中津市民病院は、大分県北部地域の災害拠点病院として多数傷病者を受け入れる重要な役割を担う医療機関として参加しました。また土砂落石に巻き込まれたバス・車両事故の想定(写真-1)に対して、中津消防の要請によりDMATチームの派遣訓練も行いました。

多数傷病者を受け入れるには通常とは異なる診療体制を素早く構築することが重要であるため、発災想定直後より院内災害対策本部を設置しました。同時に、入院患者の安全を確保しながら多数傷病者を受け入れトリアージ、安定化処置の訓練を、消防と連携して開始しました(写真-2)。またEMIS(広域災害救急医療情報システム)を用いて被災情報を随時入力し、情報発信する訓練も実施しました。

切迫する南海トラフ巨大地震、風水害に対する防災の意識付けができ、非常に実のある訓練となりました。



(写真一)



(写真二)